

令和7年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 実施計画書（継続団体用）

活動団体の本事業での活動テーマ

『西蒲区発のローカル公民連携プラットフォーム』

活動団体の活動地域：新潟県新潟市西蒲区

活動団体名：株式会社And three

中間支援主体名：新潟市

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	株式会社And three
活動地域	新潟県新潟市西蒲区
専門性・強み	
#まちづくり #地域デザイン #地方創生 #中間支援機能 #ローカルゼブラ #ローカルマルシェ #ローカルSDGs #公共施設指定管理 #官民連携 #半官半民	

団体概要
株式会社And threeは、「地域・企業・行政」「過去・現在・未来」「環境・社会・経済」など3つの要素をつなぎ、まちづくりをリデザインする新潟のローカルパートナー企業です。持続可能な社会価値と経済価値の両立を軸に、地域のステークホルダーを巻き込みながら長期的な観点で地域に参画していません。

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	新潟市
活動地域	新潟県新潟市
専門性・強み	
#地方自治体 #公共政策 #市民協働 #地域コミュニティ #人材ネットワーク #SDGs #環境 #脱炭素	

団体概要
ローカルSDGsの実現に向けて、本庁・区役所の4課が連携し、中間支援に取り組みます。
政策企画部：地区単位の自治機能の向上に向けた地域人材のネットワーク支援 政策調整課：SDGsの推進に向けた取組の支援 西蒲区地域総務課：地域コミュニティとの接続の支援 環境政策課：気候変動対策や資源循環の推進に係る支援

活動団体と地域の紹介

活動団体について

団体名	株式会社And three (アンドスリー)
メンバー	代表取締役CEO 佐々木貴生 取締役COO 石橋純
活動内容	株式会社And threeは、「地域・企業・行政」「過去・現在・未来」「環境・社会・経済」など3つの要素をつなぎ、まちづくりをリデザインする新潟のローカルパートナー企業です。持続可能な社会価値と経済価値の両立を軸に、地域のステークホルダーを巻き込みながら長期的な観点で地域に参画しています。



西蒲区 (中之口) について

概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶西蒲区は新潟市の南西部に位置し、市内8区の中で最も広く、面積は約4分の1を占めています。 ▶地形は変化に富み、市内で唯一、海・山・平野を併せ持っています。 ▶地域コミュニティ協議会の単位で9つの地区から構成されています。
資源	<ul style="list-style-type: none"> ▶多様な産官学地のコミュニティ 産：地元で愛される農家/事業所、 官：地元密着の自治会/区役所、 学：地域で学ぶ教育機関、 地：地域愛を持つキーパーソン ▶豊かな自然環境と観光資源 (角田山/多宝山、はぎ並木など) ▶広大な農地 (区面積の半分を超える田/畑など) ▶6次産業化の取り組み (農家レストランなど)



活動団体の目指す地域の姿

■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

人材/情報/交流/場所/学び、全てがつながり循環する地域。
分野/領域の垣根を越えて、行動を起こし続けられる地域。

■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

▶ プラットフォームの体制

- ・ 繋がりたい/チャレンジしたいプレイヤー
- ・ 応援したい/サポートしたいサポーター
- ・ 繋がるの場を提供するマネージャー

▶ プラットフォームの仕組み

- ・ 気軽に交流できるコミュニティ機能
- ・ 農産物をシェアできるマッチング機能
- ・ 地域情報を集約できる情報機能
- ・ 起業を支援できるファンディング機能

■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

▶ **プラットフォームの具現化 ※ソフト事業**
R6のローカルマルシェで構築した地域との関係性や、ステークホルダーMTGで集めた地域課題・地域資源等を活かし、あるべきプラットフォームについて地域と対話を重ねていく。

▶ **中之口農業体験公園の運営 ※ハード事業**
西蒲区内の公共施設である同公園の運営に参画し、地域住民との親密な関係性を構築することで地域に根差したコミュニティ機能や課題解決機能を発揮していく。（運営主体は別法人格）

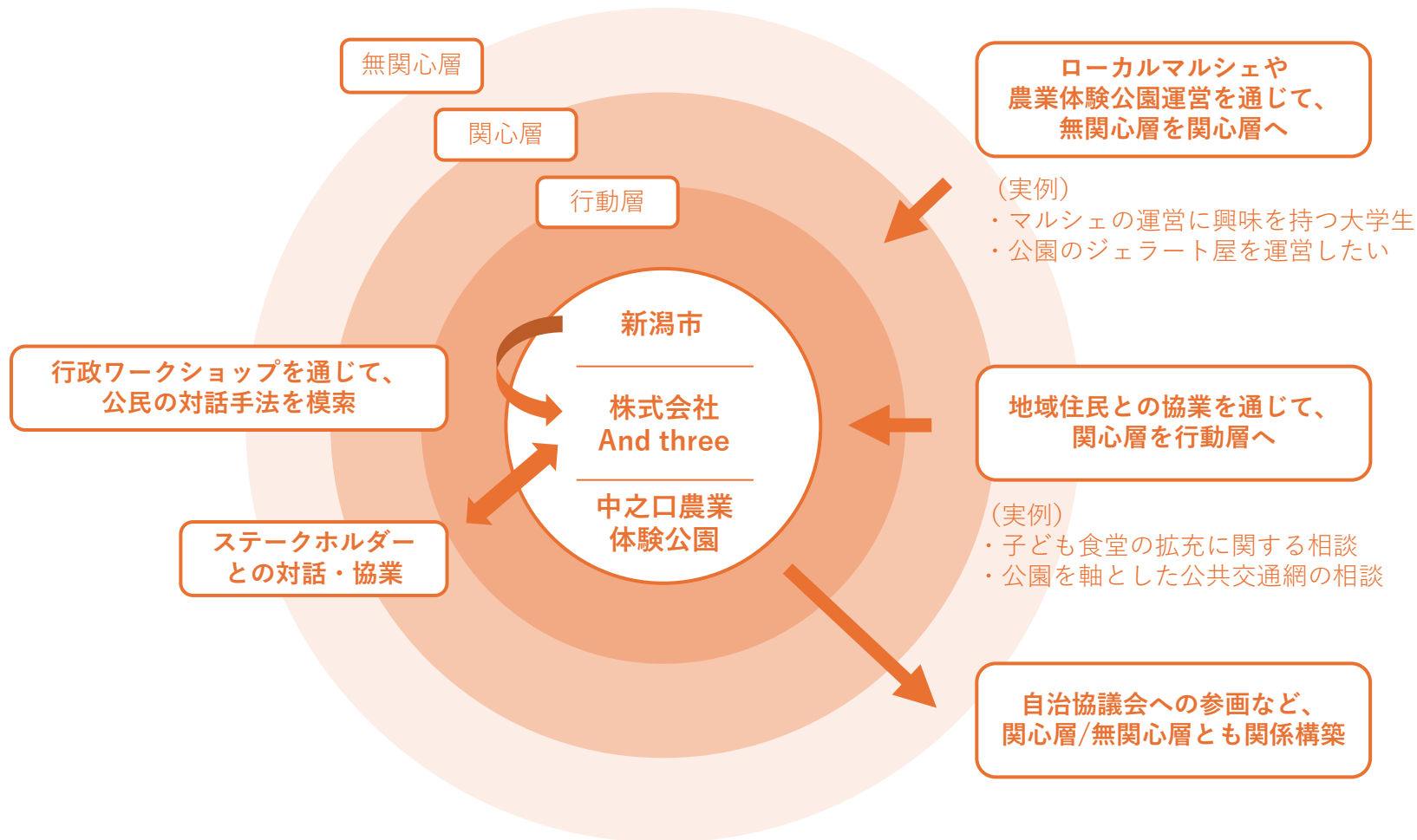
■ 地域の現状と課題

【R6の活動から得た視点】

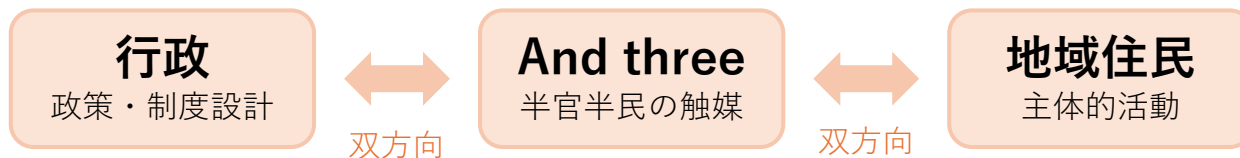
- ① 地域の解像度が高い人材は多く存在している（=ローカルSDGs人材）
- ② 民間と公共との対話をスムーズにすることで、より実効性・継続性のある取り組みに繋がる

【R7の方向性】

仮説：ローカルSDGs人材が真の公民連携手法を得ることで、地域循環共生圏づくりに近づくのでは？
課題：公民の橋渡しをしながら、①人的資本との関係構築 ②プラットフォームの具体化を進める



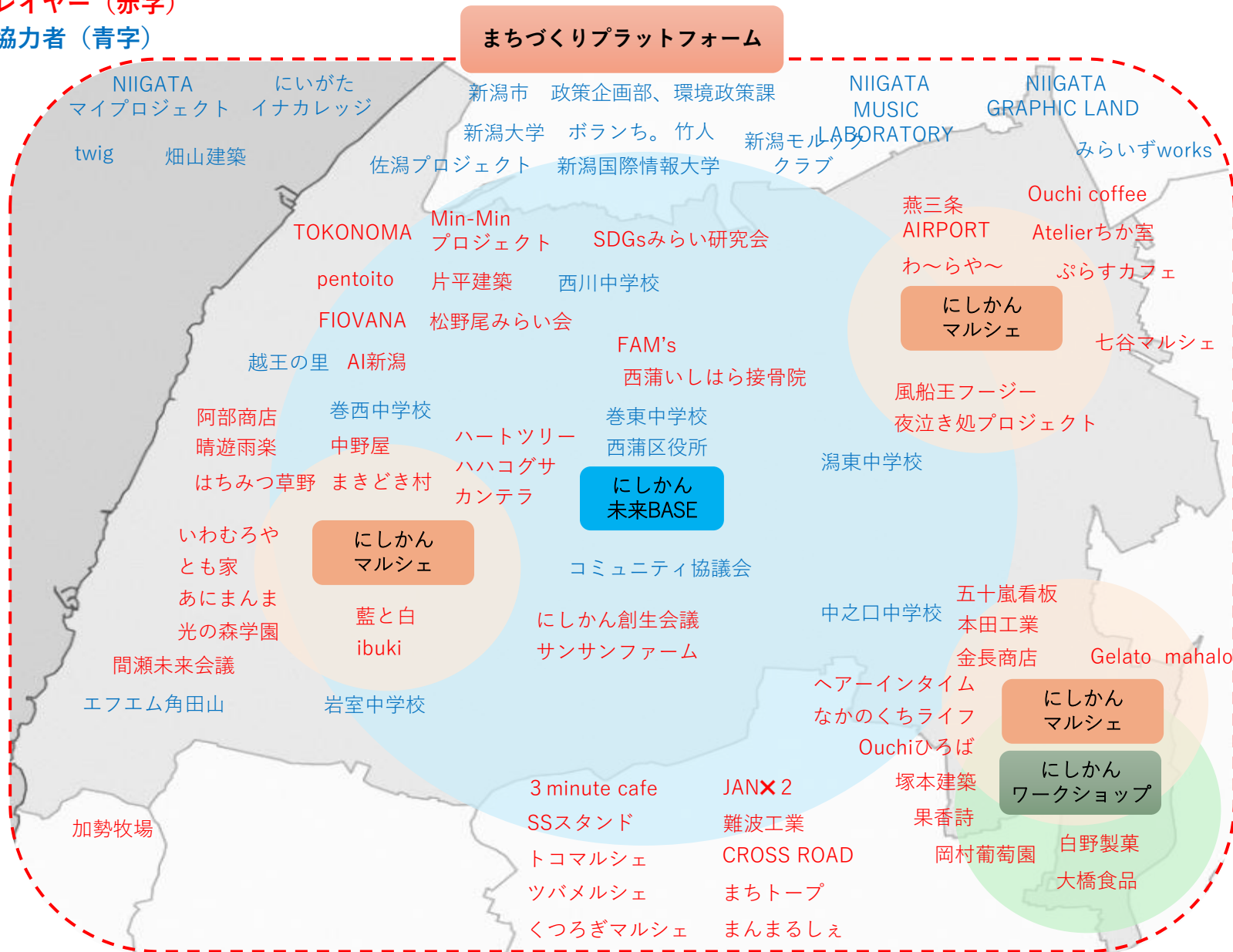
多様な層と双方向の資源循環を生み出す共生圏づくり



“地域プラットフォーム”のイメージ

地域のプレイヤー（赤字）

関係者・協力者（青字）



ローカルSDGs 事業の詳細

事業名称：佐潟 de 朝市	
あらすじ	
<p>事業の骨子に基づくあらすじを記載してください。</p> <p>ラムサール登録湿地の佐潟については、野鳥保護区域等の先入観があるためなのか、飲食等を含めたイベント企画が少ない。地元農家・飲食事業者とともに、水鳥観察を主とした「朝市」を企画し、他事業者・団体に対して、佐潟の利活用・活動の一例を示し、「賢明な利用」につながることを目的に実施する。</p>	
ストーリー	
<p>あらすじに地域の熱い想いを肉付けしたストーリーを記載してください。</p> <p>佐潟は、佐渡・弥彦・米山国定公園区域内に位置し、上潟と下潟の2つの淡水湖からなる、わが国10番目のラムサール条約登録湿地で、渡り鳥やオニバスをはじめとする動植物の宝庫です。冬には白鳥やヒシクイなど水辺に棲む数千羽の鳥たちの越冬地としてにぎわい、公園内にある佐潟水鳥・湿地センターや野鳥観察棟から間近に観察する事ができます。昭和20年代以降、水田の乾田化、潟の干拓がすすみ、新潟市における潟端の暮らしは大きく変わりました。現在でも、潟とのかかわりは、そのかたちを変えながら続いています。潟の動植物を生活の糧とする世が高齢化し、潟と共に歩んできたその「記憶」は失われつつあります。潟での漁や潟とともに暮らしてきた人々の「記憶」を次世代へと継承し、時代に促した潟との関わり方や利活用について、本取組を通じて事例を示し、「賢明な利用」につなげたい。</p>	
事業の骨子	現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	<p>事業化を進めるにあたっての課題、ボトルネックとなっていることなどを記載してください。○〇について検討できていないなどでも構いません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントに関するニーズ及び、ステークホルダーの把握。 ・地元住民や商工会等と連携し、持続可能なイベント運営体制を構築すること。 ・経済的活用への展望が乏しい。 ・朝市の内容強化 <ul style="list-style-type: none"> ①白鳥観察会や渡し船等、既存イベントと連動 ②ヨシ狩りや外来生物駆除など、佐潟保全活動との協働 ③上堰潟公園などの周辺資源と連携した、広域イベントの実施 <p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</p> <p>課題等を解決するために必要な技術を持った人・企業を記載してください。具体的に想定できない場合は、必要な技術等で構いません。佐潟に愛着を持つ住民・地元農家・周辺店舗・商工会など。</p>
②課題	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	
④地域資源	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	
⑥担い手 (Who)	
⑦事業で生じる循環	
⑧事業で生じる成果	
<p>地域版マングラから事業に関連する「ありたい未来」を抽出</p> <p>豊かな自然を残し、活かす 受け継がれる伝統文化 地元住民・事業者と密に対話をしながら、交流人口を少しずつ拡大したい</p>	
<p>地域版マングラから事業に関連する「地域課題」を抽出</p> <p>食品廃棄 担い手不足 地域資源の活用 地域活性化の取り組みの不足による地域経済の衰退 地域コミュニティの希薄化 少子高齢化 文化・歴史の継承</p>	
<p>①と②から、事業でどんな課題を解決し、地域をどうしたいのかを検討してください。</p> <p>佐潟については、野鳥保護区域等の先入観があるためなのか、飲食等を含めたイベント企画が少ない。地元農家・飲食事業者とともに、水鳥観察を主とした「朝市」を企画し、他事業者・団体に対して、佐潟の利活用・活動の一例を示し、「賢明な利用」につなげたい。</p>	
<p>地域版マングラから事業に関連する「地域資源」を抽出</p> <p>白鳥 景観 規格外野菜 地域の特色を持った野菜・果物 やる気のある地域の事業者 佐潟近隣の大学生</p>	
<p>地域版マングラの「取組」をもとに、誰を対象に、どのような価値を提供するのかを記載してください。</p> <p>白鳥の飛来する冬場（主として10月～2月）に、「朝市」を実施する。</p> <p>【朝市内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白鳥観察会 ・ハネモノ市（形が悪く出荷できない野菜をお安く販売） ・ラグーンカフェ×パン販売 ・学生によるチャレンジショップ 	
<p>地域版マングラから事業の「担い手」を抽出（またはステークホルダーリストから抽出）</p> <p>佐潟水鳥・湿地センター（白鳥観察会）、ラグーンカフェ（佐潟公園病院で就労支援を行う医療法人水明会ラグーンが運営）、新潟国際情報大学、佐潟周辺農家（ハネモノ市）、周辺店舗、商工会、株式会社And three（地域・関係団体のコーディネーター）</p>	
<p>この事業により地域内で循環するヒト・モノ・カネ・コトを記載してください。</p> <p>朝市を継続的に開催していくことで、多くの人に関わり合い、人の循環が形成される。地域内での経済循環。</p>	
<p>地域版マングラの事業に関連する「成果」をもとに、事業によって生じる効果、地域に還元される成果を深掘りして記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「朝市」を通して、地域の農家・事業者間の横のつながりの構築 ・朝活を自然の中で体感することによる参加者のマインドフルネス 	

3カ年状態目標

■ 2026年度末の状態目標

- ・プラットフォームを通じて、地域資源が繋がりにある
- ・若者の流出抑制など、社会的な行政課題の解決に貢献している

■ 2025年度末の状態目標

- ・プラットフォームを通じて生まれた事業や地域イベントが開催されるなど、地域に賑わいが生まれている
- ・プラットフォームの認知度が向上し、利用者が増加している

■ 2024年度末の状態目標と振り返り

- ・にしかんマルシェ・にしかんワークショップを通じて、地域資源や課題、ニーズが明確になっている ⇒**達成。資源・課題・ニーズをマンダラで整理できた。**
 - ・プラットフォームが試行開始されている
- ⇒**未達成。試行開始を急がず、地域との対話しながら方向性を模索していく段階。**

中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての獲得目標

市役所の強みである、各部署の専門性（タテ・本庁機能）と、それらを地域に展開する区役所（ヨコ）という、守備範囲の広さを活かしていく。また、活動団体が突き当たる障害に各部署のリソースをもって柔軟に対応するとともに、活動団体の活動状況に合わせて中間支援の体制も再構築する。

本事業を通じて、新潟市西蒲区における地域循環共生圏構築モデルを獲得するとともに、新潟市としての地域づくりの在り方を検討する。

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

新潟市として、本庁－区役所－地域が連携した今後の地域づくりのモデルを検討し、西蒲区から他区への横展開を図ることで、地区ごとの自治機能の向上につなげる。

中間支援主体の支援・取組計画

■ 中間支援主体の1年間の支援目標

活動団体が地域において公民の橋渡しという新たなポジションを獲得するとともに、①人的資本との関係構築・②プラットフォームの具体化が着実に進捗している状態を目指す。

■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	地域内で主体性のある人材の見える化やネットワークづくりは順調に進んでいる。さらに地域循環共生圏（ローカルSDGs）に向けた関係性づくりが必要。	地域のステークホルダーや行政などの対話の場づくりに伴走し、公民それぞれの関係性や共有していくコンセプトをともに考えていく。
②	活動団体に対する事業相談が増加し、地域における事業のタネが集まってきている。事業の具体化につながる機能をより明確にする必要がある。	事業相談の受け入れ態勢をともに考えるとともに、行政の持つリソース（制度、支援策など）を有効活用し、事業の具体化を促進する。
③	上記から発展させ、持続性のあるプラットフォームをソフト・ハード両面で具体化することが必要。	壁打ち相手として、活動を通じた気づきや今後の可能性などの見える化を支援し、活動の方向性を整理する。

活動・支援スケジュール

■スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】	◆ ローカルマルシェ	◆ ローカルマルシェ		◆ ワークショップ① And three×地域ステークホルダー 「地域課題解決のためのプラットフォームとは？」	◆ ワークショップ② And three×行政 「地域課題解決のためのプラットフォームとは？」				◆ 中間共有会@新潟			
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】				◆ 地域ステークホルダー×行政 「プラットフォームの具現化に向けた公民対話会」				◆ プラットフォーム具現化に向けた試行事業（仮）				
中間支援主体の支援・取組計画			◆ 中間支援座談会									◆ 中間支援 ギャザリング
			中之口農業体験公園の運営や地域住民との協業を通じた事業創出									
		月例ミーティング、ワークショップ等企画伴走、庁内各課による支援（適宜）										

備考（補足説明など必要な場合は記載）